

ゆたか会

福祉も
高島も
自分も
ゆたかに



ゆたか会

PHILOSOPHY BOOK

福祉をゆたかにすると、高島がゆたかになる。

高島がゆたかになると、自分もゆたかになる。



自分をゆたかにすると、福祉がゆたかになる。

福祉がゆたかになると、高島もゆたかになる。





まちぐるみのふくし

「家で暮らしたいけれど、施設も考えたほうがいいのか」
「働いてみたい。でも、はじめの一步がどうにもならなくて」
「子どもができてうれしいけど、自分に育てられるのかな」

まちには、ひとの数だけ声があります。
期待と不安がいりまじった声を、となりの誰かが聞く。
解決できることばかりじゃないけれど、自分一人で抱えない。
答えのない問いも、みんなのことにしてみる。
そういう、まちぐるみの福祉をはじめたいと思っています。



ひとに頼っていいんだ

自立ってどういうことだろう。

誰かに依存しないこと？ 自分のことは自分でどうにかすること？

でも、いつだってひとは、誰かと支えあっています。

これは、ある職員の声。

「生まれもった障がいのある利用者さんは、ひとに頼ることがうまいんです。

毎日顔を合わせるうちに『わたしもひとに頼っていいんだ』と教えてもらいました」

福祉の仕事には、ひとの数だけ答えがあります。

違う経験と、違う専門性と、違う施設と。

たくさんの「違う」を持ちより、みんなで問い続けることで、

福祉はきっとゆたかになります。

あげるんじゃなくて、いっしょに

わたしたちの仕事は、
支援してあげるんじゃなくて、いっしょに生活する感じ。
目の前のひとと関わりあうことで、
お互いゆたかになるのが、わたしたちの仕事。





自分と何も変わらなかった

右手だけでふきんをきれいに畳むひと。

「あなたはよう頑張ってる!」と背中を押してくれるひと。

意思に反して体が動きながらも、キャンパスに絵を描き続けるひと。

いつかマイカーを持ちたいひと。

車椅子の上から、5種類の変化球を投げるひと。

いろいろな利用者さんがいます。

「高齢者」「障がい者」ということばで表しきれない人生が

一人ひとりあって、いま目の前にいる。

そのゆたかさに触れるうち「自分と何も変わらなかったんだ」と気づく。

ひとの暮らしを支えることが、福祉なのだと思います。

いつか自分が

「ちょうあいをあわせなあかん」

とって、毎月20日になると、身を乗り出す利用者さん。

長いあいだ経理の仕事をしてきたみたい。

“ちょうあい”とは帳簿のことで「決算業務をしなくては」といまも覚えている。

いつか自分がその年を迎えたとき。

何を思い出して、どんなことばを口にするんだろう。



「ひと」として育ちあう

めざしたいのは、「ひと」として育ちあう福祉。

目の前のひとを見る仕事だから、入浴や食事介助の技術と同じくらい、心の成長を大切にしたいんです。

そういう力は、施設で働くことに加え、まちに出て、ひとと出会い続けるなかで育まれていくもの。

……でも、ゆたか会はその方法をまだまだ模索中。

どうしたら、一人ひとりが「ひと」として成長できるのか。

今、ひっそり考えているところ。

これから働くあなたの声も聞いてみたいです。





組織も、所属も、肩書きもこえて

滋賀でもっとも高齢化率の高い高島。

このまちでは30の福祉法人が活動しています。

日ごろはそれぞれの施設で働くわたしたち。

実はみんな、高島の福祉をいっしょに支えるどうし。

いま、組織も、所属も、肩書きもこえた活動がはじまろうとしています。

「悩みごとはない?」「忘れものはない?」「いつでも声をかけあおう」

みんなで集まって、話して、お互いにならっていく。

「オールたかしま」でやっていきましょう。

まち単位で考えてみる

ゆたか会は、これからどんどん変わっていきます。

“らしくない”を続けていくことで、あたらしい“らしさ”を育てたい。

たとえば、まち単位で福祉を考えてみること。

「施設でする仕事」から「まちとする仕事」に捉えなおしてみたいんです。



座談会

せまい福祉とひろい福祉のあいだで

林辰弥

特別養護老人ホーム清風荘 施設長



高島市高島町出身。次男として生まれ、ほどよい放任主義のもと育ったおかげか、大変な局面にいるときも、あまり肩ひじはらずに乗り切る。保育士として働いたのち、ゆたか会へ。現在は、施設長として清風荘のマネジメントから人材採用までを手がけている。

吉田みゆき

湖西総合在宅サービスセンターほろん センター長



高島市旧朽木(くつき)村出身。ホームヘルパー・特養老人ホームのケアマネージャーを経て、2018年からほろんへ。「高齢者福祉とは別世界」の障がい者福祉に戸惑いつつも、2021年よりセンター長を務める。ゆたか会で働いてからはショートヘアを買っている。

岡なごみ

就労継続支援B型わーくる夢 生活支援員



高島市今津町出身。高校の帰り道によく食べたのは、ピーバスのクレープ。大学で社会福祉士を取得。2022年新卒入社。障がいのあるひとたちの仕事の支援をしている。いまの自分があるのは高島のおかげ。だから今度は高島に恩返ししたいと思っている。

ひろがる福祉

吉田 わたし、せまい福祉しか見えてへんかったなあ。

林 やっと、ひろい福祉が見えてきたところですね。

岡 せまい福祉と、ひろい福祉……？

林 ぼくたちはこれまで、勤務する施設をまわしていくことが福祉の仕事だと思っていました。利用者さん一人ひとりのケアプランを立てて、生活支援をして、介護報酬の請求書類を国に提出して。

吉田 それだって大変なことです。現場のみんなは、ほんとうに頑張っています。ただ、京丹後市にある高校生の居場所「roots」に行かせてもらったり、「ふくしデザインゼミ」で各地の社会福祉法人と合わせてもらったりするなかで、



ぐぐぐっと福祉が広がってしまったんです。「これも福祉なの？あれも福祉なの？……福祉ってなに？」って。

林 施設を利用するひとだけでなく、このまちすべてのひとの暮らしを支えるのが福祉。そう捉えなおすと、福祉をつうじて、まちづくりもできそうな気がしています。

岡 まちづくり？

林 ぼくの前風景は、高島のあちこちでひとが集まって、話している姿。お年寄りがお寺に集まったり、若いひとたちが「こういうところがあったら暮らしやすいよね」と話したり、

子ども会が開かれたり。そういう風景を、福祉から取り戻していきたい。

岡 わたしは就職活動中に「高島で働こう」って思ったんです。高校の同級生はほとんど外に出るから、自分がここにいたらみんなとすぐに会える気がして。

吉田 いいこと聞けたな。わたしは、朽木村唯一のスーパーの店じまいをきっかけに、10年後の地域を想像するようになりました。定年退職で仕事を手放し、免許返納で車も手放したら、ずっと家にいるの？身の回りのものは宅配でも揃えられるとして、心はどう満たしていくの？ふと「居場所がほしい」ということばが浮かんで。

岡 居場所がほしい？

吉田 ほろんで一番聞くことばです。役割がほしい、社会の一員でありたい。誰かに名前を呼ばれたい、居場所がほしい。

林 役職とか年次、所属にとらわれず、いろんな職員さんとこういう話をしていけたら、ゆたか会は変わっていくんだろうな。ちいさな実践として、22年入職の岡さんも採用チームの一員なんです。

岡 未来のことを話していける仲間と出会いたいです！

のりしろの支援

吉田 一人のひとの暮らしを「一人の職員、一つの事業、一つの法人」ではなく「高島のまちぐるみ」で支えていきたい。その拠点となるのが、ほろんです。社会福祉の仕事は国の制度で定められていて、目の前の利用者さんにきめ細やかなサービスを提供できたからといって、法人の収入が増えるわけではありません。一人ひとりの困りごとにとこまで応えられるかは、いつも頭をひねるところです。

岡 わたしの職場、わーくる夢でも、利用者さんの仕事を支えるだけでは支えきれないところがあります。利用者さん

から「明日は雪の予報で自転車通勤ができないけど、わーくる夢で働きたい」と相談を受けてはチームで話し合い、有償の送迎車を手配します。かと思えば、別の利用者さんから「風邪をひいた」と電話があって。給湯器が壊れたけど誰に相談したらよいかわからなくて、そのまま水風呂に入って……。

吉田 離れて暮らすご家族がいれば電話をするし、頼れるひとがいなければ、わたしたちから業者さんに修理を依頼することもあります。「それも福祉の仕事なの？」って思われるかもしれませんね。たしかに制度上は、わたしたちの仕事ではありません。でも、目の前でひとが困っている。そういう制度のつなぎめに、職員一人ひとりがちょっとずつ手を伸ばす「のりしろの支援」を進めていきたいんです。

福祉っぽい、福祉っぽくない

吉田 岡さんは、どうしてこの仕事についたの？

岡 子どものときから福祉が近かったんです。親が作業療法士をしていたり、学童に通っていたり、障がいのある同級生と遊んだり。ゆたか会は高齢者福祉、障がい者福祉、地域福祉……いろいろな福祉に関われると思いました。

吉田 働きはじめて、戸惑うことはありました？

岡 福祉らしい支援ってなんだろう、と思いました。わーくる夢では、地元企業から依頼された軽作業を行います。電子部品や菓子箱を組み立てる利用者さんのサポートがわたしの仕事ですが、目の前の作業に追われて利用者さんと話せない時間にふと、福祉っぽくない気がして。

林 「支援しよう」と力まなくても、働くこと自体が利用者さんの居場所になっている面もあります。とはいえ、一人ひとりの利用者さんともっと話せる工夫はしたいですね。清風荘でも考えていきたいところ。

吉田 岡さんは、どうやって乗り越えようとしているんだろう。

岡 悩んでいたときに、わーくる夢の利用者さんと、まちのマルシェに出店する機会があったんです。一人ひとりが自分のつくりたいものをつくって、出店準備をして、みんなでお店に立って販売する。そのとき、ふだんはできない話をいろいろして。くだらない話も、みんながどんな思いで働いているのか。どんなふうになりたいのかというまじめな話も。

林 いつものメンバーとまちに出かけると、たくさん話せたんだ。

岡 そうなんです。

林 「施設の常識は、まちの非常識」ということばもあって。福祉がまちにひらかれることで、利用者さんとぼくたちの関係も変わっていくのかもしれないね。

吉田 高齢者介護は、どうですか？

林 利用者さんご家族には「在宅」か「施設」の二択ではないことをお伝えします。施設に入居してからも、お家に帰って仏壇に手を合わせてもらいたい。できるなら、通いなれたまちの美容室で美しくなってもらいたい。そうやって「在宅と施設のあいだ」をつくっていくのは大変だけど、できない理由を探すより、実現できる方法を考えていくこともきっと福祉。

岡 あらためて、福祉ってなんでしょう？

吉田 「手を差し伸べるー差し伸べてもらう」という一方通行の関係ではないんだけど……まだ何かはわからなくて。

林 ぼくもわかりません！でも、目の前のひとが大切にしたいことを大切にすることが、はじめの一步だと思います。

吉田 正解はたった一つではないんやろうね。働くひとの数だけある答えを、それぞれいっしょに考えていけるのが、福祉なのかもしれません。



1. 清風荘

特別養護老人ホーム 清風荘

- 入所：定員90名
- 短期入所：定員20名

ケアハウス じゅらく

- 軽費老人ホーム：定員20名

〒520-1605

滋賀県高島市今津町南新保87-15

Tel 0740-22-1601



2. 清湖園

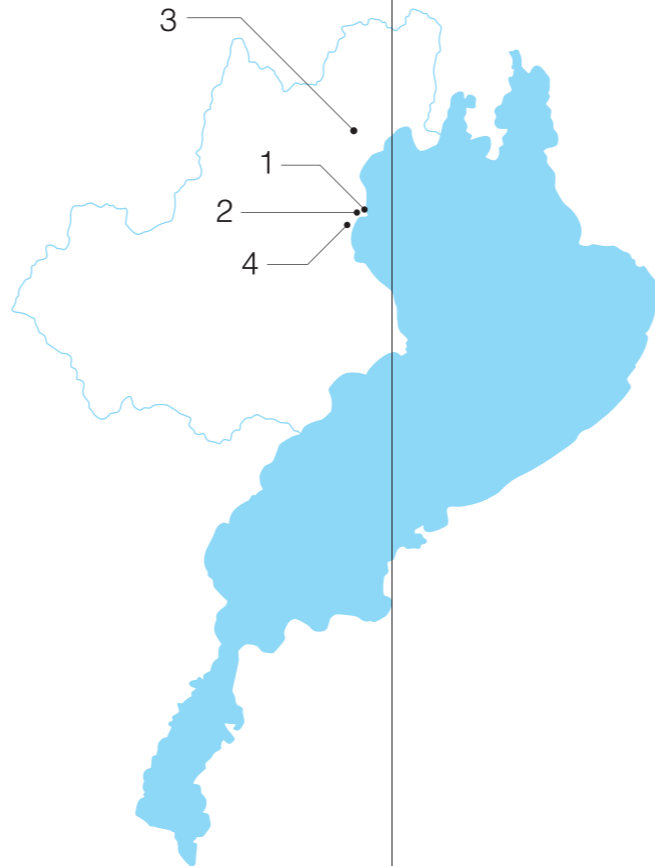
障害者支援施設 清湖園

- 施設入所支援：定員50名
- 生活介護：定員40名
- 短期入所：定員4名
- 日中一時支援

〒520-1605

滋賀県高島市今津町南新保87-14

Tel 0740-22-3490



3. さわの風

地域密着型小規模

特別養護老人ホーム さわの風

- 入所：定員29名
- 短期入所：定員1名
- 小規模多機能型居宅介護事業：
登録定員29名以内
(通い18名以内、泊り6名)

〒520-1821

滋賀県高島市マキノ町沢1791-1

Tel 0740-27-8020



4. ほろん

湖西総合在宅サービスセンター ほろん

- こころいちばん居宅介護支援センター
- こころいちばん計画相談支援センター
- こころいちばんホームヘルプサービス
- わーくる夢(就労移行支援、就労定着支援、
就労継続支援B型、生活介護)
- 湖西働き・暮らし応援センター
- 高島市障がい者社会参加促進事業

〒520-1623

滋賀県高島市今津町住吉2-11-2

Tel 0740-22-4041



制度と制度のつなぎめをすくう

社会福祉法人の主な仕事は、国が予算を定めた制度を実行することです。制度が生まれるところには、すくいきれない“つなぎめ”も生じます。1974年に清風荘ができたとき、50人の定員はすぐいっぱい。「51番目の人はどうなるの?」という疑問が、わたしの原点です。30近い事業を行う今なお、制度と制度のつなぎめは埋まりません。「国の制度だけではどうにもならんなあ」と2015年に立ち上げたのが、ほろんです。障がい者福祉や高齢者福祉のケアマネ、ホームヘルパー、そして就労支援に取り組む現場の職員が、いっしょに地域課題に取り組みます。どこまでいってもつなぎめは残ると思うんですが、多少とでも高島がよくなるかね。これから働くひとにお伝えしたいんです。「制度がこうだから」という仕事はしてほしくないことを。現場には大変なこともあります、それぞれの施設であなたの角度から見える課題に、ゆたか会として取り組んでいきたい。まっすぐ福祉を学んできたひと、人生を斜に構えているひと、自分を試すつもりで福祉に入ったらどう? 「ありがとう」のことばがすごく心に響く、「ひとの役に立てた」と心から感じられる仕事です。



杉橋 研一 | すぎはしけんいち

社会福祉法人ゆたか会 理事長

1945年生まれ。早稲田大学商学部卒業後、民間企業を経て1973年高島市にUターン。愛隣事業団(財・近江愛隣園、福・ゆたか会)に入職。1997年ゆたか会5代目理事長に就任。地域包括ネットワークの一端を担うことを指針に、湖西地域の特性を活かした事業を展開。

社会福祉法人ゆたか会

〒520-1605 滋賀県高島市今津町南新保 87-15

Tel 0740-22-1601

職員数：270名 設立：1973年

事業：特別養護老人ホーム／障害者支援施設／ショートステイ(老人・障がい)／生活介護(障がい)／ホームヘルプ(老人・障がい)／小規模多機能／居宅介護支援／計画相談支援／ケアハウス／就労継続支援B型／就労移行支援／働き・暮らし応援センター／障がい者社会参加促進事業／介護人材育成事業